



練習を見に来ていた方々は「サラブレッドのようだ。」と驚きの声をあげていました。動物が苦手だと言っていた晋賀くんも、練習後には頭を撫でてあげたり、餌をあげたりして少しずつ2頭と距離を縮め、練習期間が終わるころにはすっかり仲良くなっているようでした。練習をサポートしてきた昨年の射手、中野紅くんは「晋賀くんは上達するスピードが早い。本番も大丈夫だと思う。」と後輩への信頼が感じられました。

10月17日、本番2日前には柏原海岸にて射手と馬を清める潮がけが行われました。朝から小雨が降っており天候

が心配されましたが、柏原海岸にづく頃には雨も一旦止み、無事に「潮がけ」を行うことができました。晋賀くんのクラスメイトも駆けつけ、みんなで大役を務める晋賀くんの安全を祈願しました。

10月19日、いよいよ迎えた本番の日。今年はコロナウイルスの感染拡大防止のため無観客かつ少ない人員で神事が執り行われました。準備中の晋賀くんは「コロナ禍ということもあり、初めてのことで緊張していますが、精いっぱいやります。」と語っていました。

そして始まった流鏝馬奉納。晋賀くんは練習の時以上に速く走るみらい号に臆することなく、1走目は3本とも命中させました。この勢いで2走目へ…と思われましたが、練習時より人が多いことでみらい号も緊張したのか、うまく走ってくれません。途中で止まってしまうみらい号に声をかけながら、晋賀くんは2走目、3走目をやりぬぎ、コロナ禍の流鏝馬奉納は9本中8本の中的という結果で締めくくりました。

無事に神事を終えた晋賀くんは「ちゃんと走れなかったのは悔しいが、無事に奉納できて良かった。これで町からコロナが無くなれば良いと思う。」と安堵した様子で語り、友人や家族の前では笑顔を見せていました。

(写真提供…石川徳美)